

東京圖書院發行)〔肥後〕

●加賀藩史料 第二編

侯爵 前田家編輯部編

第一編について慶長十一年より寛永十七年に至る大阪陣を轉機として幕府の諸施設の實施さるゝに伴ひ整備された藩政の諸事項、經濟、風俗等の諸事象が細大網羅されてゐる。統一的な幕府治下に於いて尙各自特殊の歴史を経過した各藩個々の研究が要望せられる時一般には容易に觸れ得ない藩の記録に基いて根本的な整理が行はれる事は大に望ましい事である。たゞ一言希望する所は頭註が單に考異注釋を加へらるるのを其等は行間に挿入し代りに重要事項を記さるれば利用價值の更に大なるものがあると思はれる。(菊版一〇一二頁、非賣品)〔藤〕

●大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告

第一輯

大阪府はさきに府下の史蹟名勝天然記念物に關する概

括的調査報告書を出すこゝ五冊に及んだが今や更にその精査報告書を稱すべきもの、第一輯を出されるに至つた事は慶賀に堪へない。收むるこころ九項、就中通法寺址、狭山池、菅生神社、今城塚四天王寺出土瓦等を主なるものとする。(四六倍判、本文一五一頁、圖版三十八葉、非賣品、大阪府發行)〔肥後〕

●大阪府官幣社現行特殊慣行神事

大阪府編

大阪府下の官幣社住吉、大鳥、生國魂、板岡、水無瀬、四條畷諸社の現行特殊神事を起源並沿革、神事執行の模様の二項に分ち、多數の寫眞を加へて興味ある解説を施したものである。其中住吉神社の十種神事が全頁の三分の二を占めて解説されてゐる。尙其際名所圖會類に見えた舊儀を多數收めて現行のものとの比較を試み興味を添へてゐる用意ある編纂を多くしたい。本書は興味を交へた通俗的な小冊子ではある。然し近時急激に成長した民族學の對象として神社、特に神事が古代思想生活の殘存

を多く包含して其研究が古代文化闡明の上に有つ重要な限り無く大きい時斯る研究への一手引として有益なものと思はれる。此を機會に斯る調査が各地方に多數出版されん事を希望したい。(菊判一七二頁、大阪府、非賣品)

〔藤〕

●校定出雲國風土記

出雲國風土記は聖武天皇の天平五年に勅造され現存する諸風土記中最も完全なものである。併し乍ら其の傳本に誤謬が多く、從來繙讀研究に遺憾な點が少くなかつたのを、島根縣皇典講究分所に於て大正十年に之が研究会を起し、幾多の郷土史家相集まつて二十數種の異本によつて之を校訂し、前後八年を費して殆んゞ完璧に近い定本を得、宮地直一博士の校閱を経て之を上梓し、別に精巧なる天平時代の出雲國想像圖を附して會員に頒布したが、此度其の殘本を希望者に實費を以て頒つゞのこゝである。古典に趣味を有する人々は一本を求められる必要があらうと思ふ。(和本半紙判本文七三枚、索引十四枚)

松江市、島根縣皇典講究分所發行、特製貳圓、普通本壹、貳〇圓、送料六錢(〔松野〕)

●東福寺誌

白石 芳留編

今春四月舉行された開山六百五十年忌記念出版として編者の手稿『禪宗編年史』中より特に東福寺、萬壽寺、普門寺、三聖寺等に關する建久四年より享和二年に亙る事項を抄録して編年體に整理したものである。大體大日本史料の體裁に倣ひ、先づ簡潔な綱文を掲げて其重要事項には資料を載せ、然らざるものは典據を記して史實の正確を期してゐる。事項の豊富に資料の博搜は本書を宗門歴史の研究に缺くべからざる資料集とする。又重要名辭はゴシック印刷として搜覽の便を計り、各時代の重要事項を小字に註して背景としての一般情勢を知らしめ以て各事項の有つ意義を理解せしめようとする。附録には綱文を掲げて一覽に便にし、東福其他諸寺の住持歴代、東福寺末寺異同表を加へてゐる。其豊富な材料に周到な編纂は宗門の消長を窺ふべき好古のものとして、開山年